

奈良国立博物館開館130年記念特別展

Special Exhibition Celebrating
the Nara National Museum's 130th Anniversary

超国宝

ちようこくほう

祈りのかがやき

2025.

4.19_土 – 6.15_日

Oh! KOKUHO
Resplendent Treasures of Devotion and Heritage



奈良国立博物館
NARA NATIONAL MUSEUM



〔右〕国宝 菩薩半跏像（如意輪観音）飛鳥時代・7世紀 奈良・中宮寺 展示期間 5月20日～6月15日 〔左〕国宝 観音菩薩立像（百済観音）飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺 通期展示



Press Release

2024.10. 9
2024.10.15
2025.2.3



竣工時の本館（現・なら仏像館）

開催趣旨

奈良国立博物館（奈良博）は明治二十八年（一八九五）四月二十九日に開館（当時は帝国奈良博物館）して以来、令和七年（二〇二五）をもつて一二三〇周年を迎えます。これを記念し、このたび奈良国立博物館では初めての大規模な国宝展を開催します。

その名も「超国宝―祈りのかがやき―」。神仏にまつわる祈りの造形にはそれらを生み出し、守り伝えてきた先人たちの深い思いが込められています。なかでも「国宝」は私たちの歴史・文化を代表する国民の宝として広く知られています。

「超国宝」という言葉には、そうしたとびきり優れた宝という意味とともに、時代を超え先人たちから伝えられた祈りやこの国の文化を継承する人々の心もまた、かけがえのない宝であるという思いを込めました。

この特別展では、奈良博や奈良の歴史に関わりの深い国宝を中心に、未来の国宝ともいうべき重要作品など、日本が世界に誇る名品の数々をご紹介します。国宝約二〇件、重要文化財約二十件を含む約一四〇件の仏教・神道美術を展示します。二三〇年にわたる歴史を超え、国宝を生み出した先人たちの思いを超えて、文化の灯を次の時代につなぐため、奈良博が踏み出す新たな一歩をご覧ください。

奈良国立博物館のあゆみ

明治八年（一八七五）

東大寺を会場に奈良博覧会（第一次）が開催される
以後、明治二十七年（一八九四）まで十八回開催

明治二十二年（一八八九）

宮内省の管下に帝国奈良博物館が設置される

明治二十七年（一八九四）

陳列館（現・なら仏像館）が竣工する

明治二十八年（一八九五）

帝国奈良博物館が開館する

明治三十三年（一九〇〇）

奈良帝室博物館に名称が変更される

明治四十一年（一九〇八）

正倉院が帝室博物館の所管となる

大正三年（一九一四）

奈良帝室博物館のもとに正倉院掛が設置される

大正十四年（一九二五）

四月十五日～四月三十日、

「正倉院宝物古裂類臨時陳列展」開催

昭和七年（一九三二）

四月二十三日～五月八日、

「正倉院御物古裂展観」開催

昭和二十年（一九四五）

七月十日、戦争激化のため休館し、
終戦後の同年十二月五日に再開する

昭和二十一年（一九四六）

十月二十一日～十一月九日、

「正倉院特別展観」（第二回 正倉院展）開催

昭和二十二年（一九四七）

所管が宮内省から文部省へ変わり、
名称も国立博物館奈良分館に改称
同時に、正倉院は宮内府へ移管される

昭和二十七年（一九五二）

奈良国立博物館に改称

昭和四十四年（一九六九）

陳列館（現・なら仏像館）が
「旧帝国奈良博物館本館」として
重要文化財に指定される

昭和四十八年（一九七三）

新館（現・西新館）が開館する
四月二十九日～五月二十七日、
新館落成記念特別展「経塚遺宝展」開催

昭和五十五年（一九八〇）

館内組織として仏教美術資料研究センターが
設置される

平成七年（一九九五）

四月二十二日～六月四日、開館二〇〇年記念特別展
「日本仏教美術名宝展」開催

平成十年（一九九八）

東新館が開館する。四月二十五日～六月七日、
東新館開館特別展「天平」開催

平成十三年（二〇〇一）

独立行政法人国立博物館奈良国立博物館となる
敷地内に文化財保存修理所を開設する

平成十九年（二〇〇七）

独立行政法人国立文化財機構
奈良国立博物館となる

平成二十二年（二〇一〇）

四月三日～六月二十日、
平城遷都三三〇〇年記念特別展「大遣唐使展」開催
本館をなら仏像館と改称する

令和七年（二〇二五）

四月十九日～六月十五日、開館三三〇年記念特別展
「超国宝―祈りのかがやき―」開催予定

奈良国立博物館開館二三〇周年にあたって

奈良国立博物館長 井上洋一

令和七年（二〇二五）四月二十九日、奈良国立博物館（奈良博）は開館二三〇年を迎えます。神仏分離等、近代初頭の混乱を経て誕生した奈良博。そこには歴史・文化が凝縮された文化財を守り、その価値を広く共有し、それを確実に次世代に継承していくこととする人々の営みがありました。当館は開館以来、特に南都諸社寺のご協力をいただきながら仏教美術研究センターとしての役割も十分に踏まえつつ、さまざまな文化財と奈良のもつ歴史・文化的景観の有機的な連携を考えながら活動して参りました。

このたびの国宝展は、こうした歴史を踏まえつつ、奈良ならではの、奈良博らしい国宝展にしたいと考えております。

私たちを取り巻く社会は、急速にその姿を変え、人類の共存と共生を脅かす状況にあります。私たちは、こうした状況の中で「博物館は何ができるのか」という問題に真摯に対峙し、平和で持続可能な成熟した社会形成に貢献すべきだと思います。そして多様性と社会的包摂を念頭に置きながら、真の国際化を踏まえた魅力ある博物館の構築を志向するとともに、新たな奈良文化の発信の拠点として、多くの方々に親しんでいただけるような博物館を目指したいと思っております。



見どころ

◎仏教・神道美術一〇〇％

奈良国立博物館は仏教美術を専門とする博物館として、彫刻、絵画、書跡、工芸、考古や情報、保存など各分野の研究員が所属し、文化財の保存・研究・公開を行っています。本展では仏像や神像、仏画、経典、仏具など、各分野の研究員に選りすぐられた仏教・神道美術一〇〇％の国宝、そして関連の文化財を展観します。先人のいのりが込められた、唯一無二の至宝の数々。奈良や奈良博にゆかりの深い社寺のご協力のもとに開催する、奈良博ならではの国宝展、どうぞご期待ください。



国宝

薬師如来坐像

平安時代・9世紀 奈良国立博物館 通期展示

※展示品・展示期間については、諸事情により変更する可能性があります。

第1章

南都の大寺

明治維新による急激な社会変動の中、仏像をはじめとする多くの文化財は散逸の危機に瀕しました。奈良博の歴史はこうした文化財の保護とともにあったといえるでしょう。一方で奈良博は、南都（奈良）の名だたる大寺の協力によって育てられ、多くの発見や感動を生みだしてきました。本章では特に奈良博の歴史と関係の深い南都の大寺に伝えられた仏像を中心にご紹介します。

ここが超!

奈良博の二三〇年を祝し、縁の深い仏像や名宝の数々が大集合。混迷する現代に平和への祈りを込めて、古代からリレーされた文化の灯を体感してください。



国宝

観音菩薩立像（百済観音）

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺 通期展示

国宝

金銅八角燈籠火袋羽目板

奈良時代・8世紀 奈良・東大寺

展示期間：5月16日～6月15日

ここが
超!

仏の持つエネルギーの結晶ともいえる仏舎利。その荘厳として作られた精緻な容器の数々。日本を代表する釈迦如来像の名作とともに、奈良博に聖なる空間が現出します。

釈迦を慕う

第3章

奈良の地で栄えた仏教の大きな流れとして、釈迦とその遺骨である仏舎利への信仰があります。本章では、飛鳥寺の舍利埋納にはじまり、鎌倉時代に隆盛をみせた律宗の僧である叡尊による舍利信仰まで、釈迦を慕う思いが生み出した各時代における名宝を展示します。なかでも我が国を代表する釈迦如来像の名作とともに舍利荘厳具の数々が一堂に会する展示は必見です。



国宝
釈迦如来倚像
飛鳥時代・7世紀 東京・深大寺
通期展示



国宝
金亀舍利塔
鎌倉時代・13世紀 奈良・唐招提寺
通期展示



国宝
龍燈鬼立像
鎌倉時代・建保3年(1215) 奈良・興福寺
展示期間:4月19日～5月18日



国宝
天燈鬼立像
鎌倉時代・建保3年(1215) 奈良・興福寺
展示期間:4月19日～5月18日



国宝
竜首水瓶
飛鳥時代・7世紀
東京国立博物館・法隆寺献納宝物 通期展示

ここが
超!

「奈良博覧会」における目玉展示の一部を再現! 名品・珍品を通じて奈良博草創期の歩みをご覧ください。



奈良博覧会立札
明治時代・19世紀
個人蔵 通期展示

第2章

奈良博誕生

奈良博の誕生以前明治八年(一八七五)から十八回にわたり、東大寺を会場として奈良の文化財や産業を紹介する「奈良博覧会」が開催されました。その反響は、やがて博物館の構想に結びつき、帝国博物館(現・東京国立博物館)に次ぐ国立の博物館として、明治二十八年(一九九五)に帝国奈良博物館(現・奈良博)が誕生しました。本章では奈良博覧会から奈良博誕生の歩みにまつわる文化財をご紹介します。

第4章

美麗なる仏の世界

善を尽し、美を尽す。仏像や仏画を中心とした祈りの造形は、その時代ごとにし得る最高の美意識と技術を集めて作り上げられました。本章では、華麗なる彩色や鍍金を駆使した平安仏画のほか、平安から鎌倉時代に制作されたとりわけ美しい仏像や工芸作品をご覧いただきます。また地獄草紙や病草紙など、ほとけの救いと明暗をなす世界を描いた作品の数々も見所です。

国宝

菩薩半跏像（伝如意輪観音）
平安時代・8世紀
京都・玉菩提院願徳寺 通期展示



ここが超!

わが国を代表する美しき仏たちが大集合！
その姿を通じ、先人達が祈り、イメージした清らかな
仏の世界に没入してください。

国宝

十一面観音像
平安時代・12世紀 奈良国立博物館
展示期間：4月19日～5月18日



国宝

大日如来坐像
運慶作 平安時代・安元2年(1176)
奈良・円成寺 通期展示



国宝

釈迦金棺出現図
平安時代・12世紀 京都国立博物館
展示期間：5月20日～6月15日



第5章

神々の至宝

奈良博が大切にしてきた展示テーマの一つとして神道の美術があります。仏教以前から鏡や剣によって象徴されてきた神々は、やがて神像としても表現され、また神々に捧げるための工芸品も数多く製作されました。本章では東アジアの古代史を語る上でも欠かせない石上神宮の七支刀をはじめ、神々の姿を表した絵画や彫刻、精緻な技巧が凝らされた神宝を通じ、神々に対する祈りの世界をご覧ください。



国宝

吉祥天像

奈良時代・8世紀

奈良・薬師寺

展示期間：4月19日～5月6日

ここが超!

ほとんど人の目に触れることなく伝えられてきた神々の至宝。七支刀をはじめ、奈良を中心とした神社にゆかりの名宝を本展では間近にご覧いただけます。

国宝

七支刀

古墳時代・4世紀 奈良・石上神宮
通期展示



国宝

金地螺鈿毛抜形太刀(部分)

平安時代・12世紀 奈良・春日大社 展示期間：4月19日～5月18日



第6章

写経の美と名僧の墨蹟

仏の教えを伝える経典は、書写することに加え、それ自体を美しく飾ることも功德があるとされてきました。わが国においては、経文を写す紙に煌びやかな装飾を施した写経が平安時代に隆盛し、類い希な作品の数々が生み出されています。本章では日本を代表する古写経とともに、高僧たちの墨蹟にみる書の美の世界をご紹介します。



国宝

金光明最勝王経(国分寺経)(部分)

奈良時代・8世紀 奈良国立博物館

通期展示(巻の入れ替えあり)

ここが超!

平安時代に描かれた精緻な宝塔。よくみると全体が経典の文字で形作られています!細部に宿る美の世界をご堪能ください。



国宝

山水図(水色巒光図)

室町時代・文安2年(1445) 奈良国立博物館

展示期間：4月19日～5月18日

国宝

金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅 第六幀

平安時代・12世紀 岩手・中尊寺大長寿院

展示期間：4月19日～5月18日



第7章

未来への祈り

釈迦の入滅から五十六億七千万年後、弥勒菩薩がこの世に現われ、生きとし生けるものを救うと伝えられています。われわれが目指す光に満ちた世界のため、先人たちは写経の埋納などを通じ、未来に祈りを伝えていくことを願いました。本章では中宮寺の菩薩半跏像を中心に、文化の灯を次の時代につなぐ思いを込めた展示を行います。

こが超!

展覧会の最終章では、仏さまと向き合える特別な空間を設えます。かけがえのない文化財とそれを伝えてきた先人の祈りを受け継ぎ、奈良国立博物館のあらたな時代がいま開かれます。

国宝

菩薩半跏像

(伝如意輪観音)

飛鳥時代・7世紀 奈良・中宮寺

展示期間: 5月20日～6月15日

主な出陳作品

- ・国宝 観音菩薩立像(百済観音) 飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺
- ・国宝 重源上人坐像 鎌倉時代・13世紀 奈良・東大寺
- ・国宝 信貴山縁起絵巻 尼公巻 平安時代・12世紀 奈良・朝護孫子寺
- ・国宝 金銅八角燈籠火袋羽目板 奈良時代・8世紀 奈良・東大寺
- ・国宝 薬師如来立像 平安時代・9世紀 奈良・元興寺
- ・国宝 天燈鬼・龍燈鬼立像 鎌倉時代 建保三年(一二五) 奈良・興福寺
- ・国宝 竜首水瓶 飛鳥時代・7世紀 東京国立博物館
- ・国宝 澤千鳥螺鈿時絵小唐櫃 平安時代・11～12世紀 和歌山・金剛峯寺
- ・国宝 崇福寺塔心礎納置品 飛鳥時代・7世紀 滋賀・近江神宮
- ・国宝 銅板法華説相図 飛鳥・奈良時代・7～8世紀 奈良・長谷寺
- ・国宝 釈迦如来倚像 飛鳥時代・7世紀 東京・深大寺
- ・国宝 刺繡釈迦如来説法図 中国・唐または飛鳥時代・7世紀 奈良国立博物館
- ・国宝 釈迦如来坐像 平安時代・9世紀 奈良・室生寺
- ・国宝 釈迦如来立像 中国・北宋 雍熙二年(九八五) 京都・清凉寺
- ・国宝 金亀舍利塔 鎌倉時代・13世紀 奈良・唐招提寺
- ・国宝 寂尊坐像 鎌倉時代 弘安三年(一二八〇) 奈良・西大寺
- ・国宝 鉄宝塔および五瓶舍利容器 鎌倉時代 弘安七年(一二八四) 奈良・西大寺
- ・国宝 菩薩半跏像(伝如意輪観音) 平安時代・8世紀 京都・宝菩提院願徳寺
- ・国宝 大日如来坐像 平安時代 安元二年(二七六) 奈良・円成寺
- ・国宝 十二面観音像 平安時代・12世紀 奈良国立博物館
- ・国宝 虚空蔵菩薩像 平安時代・12世紀 東京国立博物館
- ・国宝 地獄草紙 平安・12世紀 奈良国立博物館
- ・国宝 餓鬼草紙 平安・12世紀 東京国立博物館
- ・国宝 一遍上人絵伝 巻第三 鎌倉時代 正安元年(二九九) 神奈川・清浄光寺
- ・国宝 中尊寺金色堂内具のうち 金銅華鬘・金銅幡頭 平安時代・12世紀 岩手・中尊寺金色院
- ・国宝 釈迦金棺出現図 平安時代・12世紀 京都国立博物館
- ・国宝 阿弥陀三尊および童子像 平安・鎌倉時代・11～13世紀 奈良・法華寺
- ・国宝 阿弥陀三尊(子鳥曼荼羅) 平安時代・11世紀 奈良・子嶋寺
- ・国宝 動植綵絵(雪中鶴鶴図・大鶏雄雄図) 伊藤若冲筆 江戸時代 宝暦九年(二七五九) 皇居三の丸尚蔵館
- ・国宝 七支刀 古墳時代・4世紀 奈良・石上神宮
- ・国宝 八幡三神坐像 平安時代・9世紀 奈良・薬師寺



国宝

俱利伽羅龍時絵経箱

平安時代・12世紀 奈良・當麻寺奥院

展示期間: 4月19日～5月18日

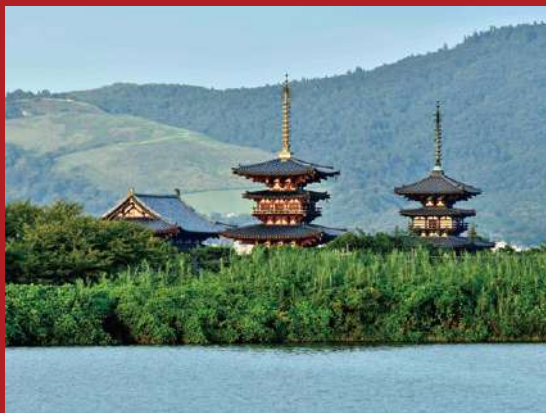
国宝の聖地・奈良

キーワードは《奈良》

二〇二四年九月現在、国宝全一、四三件の内訳は、美術工芸品九二二件、建造物二三二件。そのうち、奈良県では東京、京都に次いで全国で三番目に多い十八・二％にあたる、二〇八件の国宝が指定されています。なかでも、彫刻は七十六件で全国の五十三・九％、建造物は六十四件で二十七・七％を占めます。

奈良国立博物館の位置する奈良公園周辺だけでも、東大寺、興福寺、春日大社、新薬師寺、元興寺、正倉院など国宝に指定される建造物が十九件あり、現地でしか拝観できない彫刻の国宝も多数あります。

万博イヤーに、ぜひ奈良へ。展覧会とあわせて、奈良の町を歩き、歴史ある社寺を巡れば、まさに「国際博覧会（万博の正式名称）」ならぬ「国宝博覧会」です。



西ノ京 薬師寺遠望



東大寺 南大門

撮影：桑原英文（2点とも）

グッズ情報

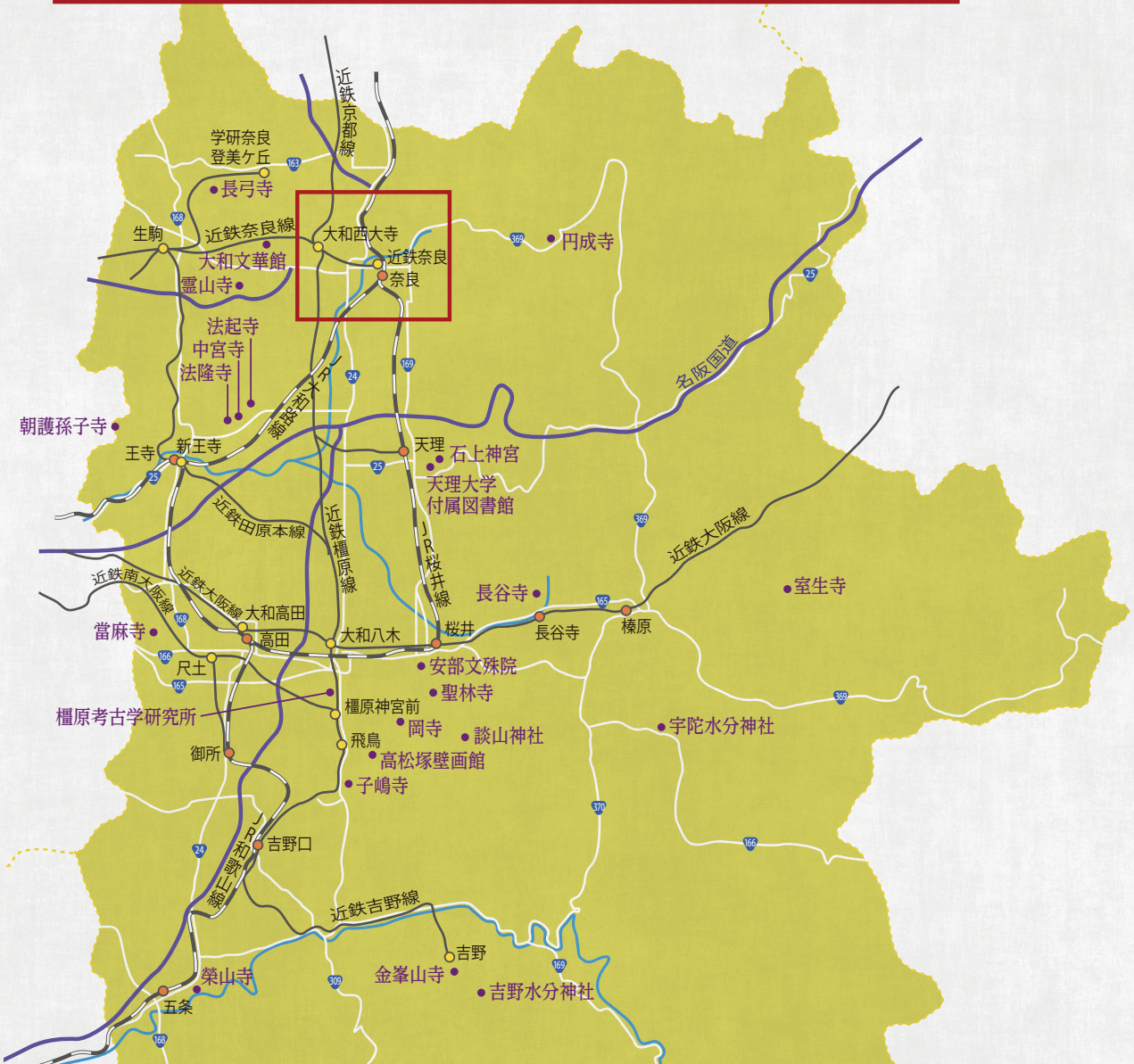
二〇二〇年にコロナ禍で開催中止となった東京国立博物館の特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」を記念して海洋堂が制作した、初の百済観音立像公式フィギュアを、特別展「超 国宝」で復刻。パッケージも「新し販売します」。



- サイズ：全高約160mm
- 仕様：ポリストーン/PVC
- 造形企画制作：株式会社海洋堂
- 販売元：朝日新聞社
- 原型制作：Studio-蓮
- 販売価格：未定

法隆寺での現地調査をもとに、像高約210センチの百済観音を、およそ16センチの大きさに再現。破損の危険がある部分などには一部アレンジを加え、完成したフォルムを原型としました。原型にあえて傷を入れ、その上に彩色を行うなど、塗装の工程でも、凹凸のある古さの表現を目指しました。

奈良国宝MAP



〔凡例〕
奈良県内の国宝を保管、公開している団体、組織の名称を紫色で掲載した。ただし、保管のみで公開施設がない場合がある。博物館などに寄託していたり、非公開のものもあるため、訪問時は各所蔵者の公式サイトなどで詳細を要確認。



国宝 刺繍釈迦如来說法図(部分) 中国・唐または飛鳥時代・7世紀 奈良国立博物館

奈良国立博物館開館130年記念特別展

「超 国宝—祈りのかがやき—」

会期 2025年4月19日(土)～6月15日(日) ※会期中、一部の作品は展示替えを行います。

前期展示: 4月19日(土)～5月18日(日)

後期展示: 5月20日(火)～6月15日(日)

休館日 毎週月曜日、5月7日(水) ※ただし、4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館

開館時間 午前9時30分～午後5時(予定) ※入館は閉館の30分前まで

会場 奈良国立博物館 東・西新館(〒630-8213 奈良市登大路町50番地 奈良公園内)

問い合わせ 050-5542-8600(ハローダイヤル)

主催 奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿

協賛 大和ハウス工業、NISSHA、ひらくと

特別支援 DMG森精機

協力 日本香堂、仏教美術協会

展覧会公式サイト: [https:// oh-kokuho2025.jp/](https://oh-kokuho2025.jp/) 公式X: @oh_kokuho2025

※観覧料、イベント等の情報は決まり次第展覧会公式サイト等でお知らせします。

[プレスお問い合わせ]

「超 国宝—祈りのかがやき—」広報事務局(ユース・プランニング センター内)

担当: 片山・池袋

TEL: 03-6826-1245 FAX: 03-6821-8869

E-mail: chokokuho2025@ypcpr.com

〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4F

来春は関西2つの国立博物館で日本美術が熱い！

本展と同一会期で、京都国立博物館にて

大阪・関西万博開催記念 特別展「日本、美のるつぼ—異文化交流の軌跡—」を開催！

共通チケットなど両展を一緒に楽しむ企画は、決まり次第各展公式サイト等で紹介します。

<https://rutsuho2025.jp/>